

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本の教育問題を教育学の概念で分析する。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代的な学校教育制度の歴史と成り立ちを説明する。 2. 学校化社会を業績原理とジェンダーの視点で再考する。 3. カウンセリングマインドをスキルと背景から理解する。 4. 教育評価に関するいくつかの類型論を比較検討する。 5. 「教育」をめぐる常識と定義の違いを明らかにする。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が身に付けてきた内容を教育学の概念で反省的に振り返る。 2. 教育学の理論のうち教育や子育てに役立つ部分を学生が活用する。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第2回 高校と大学の違い(1)：皆さんが気づいたズレと理由は？ 第3回 高校と大学の違い(2)：学校系統図と就進学率の歴史 第4回 高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？ 第5回 学校化社会の戦略(1)：帰属原理と業績原理はどう違う？ 第6回 学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理の間には？ 第7回 学校化社会の戦略(3)：学校は授業で塾と勝負できるか？ 第8回 カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンター 第9回 カウンセリングマインド(2)：中国の小学校から振り返る 第10回 教育評価を振り返る(1)：相対評価と絶対評価の違いは？ 第11回 教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括の三段階 第12回 教育の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代的教育 第13回 教育の常識から定義へ(2)：「発達への介入」として 第14回 教育原理を実践する：グループ発表と相互コメント 第15回 レポートの返却と成績評価の還元						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書を使いますが各自でも読んでください。 2. 参加者が自分の物語をテキストにしてください。 						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前半は講義を中心に進めます。 2. 後半は活動を取り入れます。 3. 途中で映像も折り込みます。 						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平常点40点（コメントカード、レポート発表など） 2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる） 3. 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。 						
教科書	上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』ちくま文庫、2008年。 ISBN:978-4-480-42460-0						
参考書	教科書は指定するが、必要な資料を配布し、参考文献も紹介する。						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	戸来 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生涯学習についての概説						
授業の概要	<p>キーワード：生涯学習社会の理解</p> <p>生涯学習という概念は、1960年代の中頃から新しい教育理念として出てきた。今日では、生涯学習社会を構築するために、学校教育にとどまらず、社会教育の役割も重要になっている。生涯学習論では、教育の原理、および生涯学習の意義を把握し、人間のライフサイクルと共に変化する学びの必要性を理解するし、また、社会教育施設や、教育に関する自治体行財政や法律についても学ぶ。</p>						
到達目標	<p>生涯学習、および社会教育の意義を理解する。生涯学習の歴史的経緯を知る。人間の成長・発達の視点から教育の必要性を理解すると共に、有効な学習方法や学習のニーズを理解する。老人大学をはじめとする様々な社会教育施設を知る。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 生涯学習の歴史的側面・理念・目標</p> <p>第2回 学校教育と生涯学習の関連性・生涯学習の現状</p> <p>第3回 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携</p> <p>第4回 日本と外国の生涯学習のあり方の相違</p> <p>第5回 生涯学習の内容・方法・形態について</p> <p>第6回 成人期に学ぶことの意義と現状</p> <p>第7回 老年期の学ぶことの意義と現状。教育老年学の紹介</p> <p>第8回 生涯学習振興施策の立案と推進に関する事</p> <p>第9回 生涯学習に関する社会教育行政について・一般行政との関連について</p> <p>第10回 自治体の行財政制度と教育関連法規について</p> <p>第11回 様々な社会教育の内容・方法・形態</p> <p>第12回 社会教育施設及び生涯学習関連施設の紹介とその管理と運営</p> <p>第13回 学習者への支援と評価の在り方・学習成果の活用について</p> <p>第14回 社会教育指導者の育成とその役割について</p> <p>第15回 まとめ・生涯を通して学ぶことの意義の確認</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前 前もって配布した資料等を読んでくること。</p> <p>授業後 ノートを整理し授業内容を復讐すること。質問や疑問点があれば、次の授業で質問してください。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験の点数に小レポートや授業に取り組む姿勢などを2割を目安に加算します。						
教科書	特にしていません。						
参考書	<p>『生涯学習と自己実現』、堀薫夫、三輪健二著、放送大学教材</p> <p>『生涯学習論 - 現代社会と生涯学習』、岩永雅也著、放送大学大学院教材</p>						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	戸来 知子						
学期	後期 前半	曜日・時限	木曜5	配当学年	1~3	単位数	1.0
授業のテーマ	生涯学習社会の理解						
授業の概要	キーワード：生涯学習の概略理解 1960年代中頃から新しい教育理念として提唱されてきた生涯学習について理解を深める。生涯学習社会の構築を目標に、その歴史、生涯を通して学ぶことの必要性を理解する。						
到達目標	生涯学習および社会教育の本質と意義を理解する。人間の成長・発達に従って必要な学びが変化していくことを理解する。成人期、老年期にも学ぶことは必要であることを理解し、どのような教育施設があるのかを知る。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 生涯学習の歴史・理念・目標の理解 第2回 生涯学習と家庭教育・社会教育との関連性について 第3回 生涯学習関連施策の動向について 第4回 社会教育の意義について 第5回 社会教育の内容・方法・形態について・諸外国との比較 第6回 社会教育指導者の育成とその役割について 第7回 社会教育施設の概要 第8回 生涯学習の情報の提供と学習相談の意義および評価について						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：配布したプリントを読んでおくこと 授業後：ノートを整理する。疑問点、質問事項を整理する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験の点数に授業に取り組む姿勢も2割を目安に加えます。						
教科書	指定しない						
参考書	『生涯学習と自己実現』、堀繁夫、三輪健二著、放送大学教材						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館概論						
担当教員	三好 唯義						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。						
授業の概要	博物館に関する基礎的な知識を学ぶ。それは博物館の定義、種類、機能、歴史などであり、今後の博物館学ならびに実習を進める上での基礎的知識である。さらに講義では、基礎的な知識を学ぶだけでなく、わが国の博物館の置かれた現状を把握することにも努め、これからの博物館のあり方を考える知識と能力を養う。						
到達目標	博物館とは何をし、そして何をすべき機関であるかを知ることができる。またそこに属する学芸員はどのような仕事をしているのか、その資質として何が必要かを知ることができる。また現在の博物館と学芸員を取り巻く問題点も把握できる。						
授業計画	(1回) 博物館学の目的、方法（博物館論理学と技術学）、構成要素、周辺科学 (2回) 欧米と日本における博物館学史 (3回) 博物館の語源・定義（ICOM・ユネスコ・博物館法の規定）、他機関との相違 (4回) 博物館の種類分類、設置者別分類、法的区分 (5回) 博物館の目的とは (6回) 博物館の機能について (7回) 博物館の社会的機能（地域社会型、観光型、研究型） (8回) 欧米における博物館発達史 (9回) 日本における博物館発達史1（昭和20年まで） (10回) 日本における博物館発達史2（昭和20年以降） (11回) 博物館の現状と課題（種別、地域分布、入館者数など） (12回) 博物館の未来像、博物館と他者との「連携と対話」 (13回) 拡大する文化財概念と世界文化遺産 (14回) 学芸員の役割（定義、役割、実態、諸外国との相違） (15回) 博物館関連法令について						
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館の見学はもちろん、新聞や雑誌、インターネットなどで、できるだけ博物館に関する情報に触れておくこと。 講義で学んだことを、現実の博物館にてらしつつ、自分にとって博物館とはという問題を考え続けること。						
授業方法	講義形式にておこなう。						
評価基準と評価方法	平常評価（出席、態度、発表、課題レポート提出等）70%と、期末レポート30%にて、総合的に評価する。						
教科書	プリントを配布。						
参考書	授業中に紹介します。 新編 博物館学 倉田公裕・矢島國雄著（東京堂出版） 博物館学ハンドブック 高橋隆博他編著（関西大学出版会）						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館学各論						
担当教員	問屋 真一						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜5	配当学年	3～4	単位数	4.0
授業のテーマ	博物館資料、博物館経営の研究						
授業の概要	博物館の資料論として主として人文系資料の収集・整理・調査研究、保存、活用について学び、次いで情報論、経営論として、博物館を取り巻く近年の状況を踏まえた今日的課題について理解する。						
到達目標	博物館の人文系資料の収集・保存・調査・活用、また今日の博物館が抱える制度的、経営的諸問題に関する基本的事項を知り、市民にとってどのような博物館が望ましいのか、考察することができるようになる。						
授業計画	<p>前期 博物館資料論</p> <p>第1回 博物館の基本的機能</p> <p>第2回 人文系資料の収集・整理・調査研究</p> <p>第3回 人文系資料の収集・整理・調査研究</p> <p>第4回 人文系資料の収集・整理・調査研究</p> <p>第5回 人文系資料の保存と修復</p> <p>第6回 人文系資料の保存と修復</p> <p>第7回 自然科学系資料の収集の特徴</p> <p>第8回 自然科学系資料の収集の特徴</p> <p>第9回 博物館資料の活用 常設展示</p> <p>第10回 博物館資料の活用 常設展示</p> <p>第11回 博物館資料の活用 企画展示</p> <p>第12回 博物館資料の活用 企画展示</p> <p>第13回 博物館資料の活用 教育普及</p> <p>第14回 博物館資料の活用 教育普及</p> <p>第15回 資料論のまとめと試験等</p> <p>後期</p> <p>第1回 館活動の情報化、ネットワーク</p> <p>第2回 知的財産権と博物館</p> <p>第3回 博物館経営とは何か</p> <p>第4回 博物館の組織と学芸員</p> <p>第5回 博物館の組織と学芸員</p> <p>第6回 博物館の施設と設備</p> <p>第7回 博物館の施設と設備</p> <p>第8回 博物館の行財政 制度と施策</p> <p>第9回 博物館の行財政 国立館</p> <p>第10回 博物館の行財政 国立館</p> <p>第11回 博物館の行財政 公立館</p> <p>第12回 博物館の行財政 公立館、私立館</p> <p>第13回 博物館評価と市民サービス</p> <p>第14回 博物館評価と市民サービス</p> <p>第15回 情報論経営論のまとめと試験等</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から多くの博物館、展覧会を見学することが望ましい。また授業で得た知識や問題意識をいかして博物館、展覧会を見学し、新たな疑問や課題を持つことが重要です。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験またはレポートに加え、出席状況、提出物や授業態度、意欲などの平常点を重視する。						
教科書	適宜プリントを配布する。						

参考書	講義中に適宜紹介する。
-----	-------------

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館教育論						
担当教員	三好 唯義						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館における教育活動の基礎となる理論や実践に関する知識となる方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。						
授業の概要	博物館は社会教育の場、生涯学習の場である。この認識と対応は、現在の博物館にとって重要な課題である。博物館は学びの場としてどうあるべきか、そして利用者に対してどのように教育的活動を提供し、実践してゆけるかを考察する。博物館そしてそこで働く学芸員によって実践されている事例を学び、さらに将来に向けてどのように展開してゆくべきかを考えたい。						
到達目標	博物館が実践している教育的な活動を、具体的に知ることができる。 博物館教育の理論と具体例を学ぶことによって、新たな活動例を企画・立案することができる。						
授業計画	(1回) 学びの意義 (2回) コミュニケーションとしての博物館教育（博物館教育の双方向性） (3回) 博物館教育の意義 (4回) 生涯学習と博物館 (5回) 博物館教育の方針と評価、評価の基準 (6回) 博物館の利用実態（多様な利用者とニーズ）と利用者の博物館体験 (7回) 博物館における学びの特性（モノを通しての学び） (8回) 博物館教育活動の手法（講座、講演会、体験学習、ギャラリートークなど） (9回) 博物館教育活動の手法（体験学習と博物館資料） (10回) 博物館教育活動の手法（子ども向け講座、ワークシートなど） (11回) 博物館教育活動の手法（生涯学習としてのボランティア） (12回) 博物館教育活動の手法（情報提供、資料の特別利用など） (13回) 博物館教育活動の手法（出版事業、ホームページなど） (14回) 博物館教育活動の企画と実施 (15回) 学校教育との連携						
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館の見学はもちろん、新聞や雑誌、インターネットなどで、博物館が実践している諸活動に関する情報に触れておくこと。そして、自らも参加・体験することが望ましい。 講義で学んだこと、現実の博物館で実践されている教育活動を知り、博物館教育とはどうあるべきかという問題を考えること。						
授業方法	講義形式にておこなう。						
評価基準と評価方法	平常評価（出席、態度、発表、課題レポート提出等）70%と、期末レポート30%にて、総合的に評価する。						
教科書	プリントを配布。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館情報・メディア論						
担当教員	塚原 晃						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館・美術館におけるITC（情報コミュニケーション）技術の応用						
授業の概要	博物館が収集した1次・2次資料に関する情報は、博物館活動を展開する上で基幹となる情報である。近年、マルチメディアの発達は目覚ましいが、それに伴い博物館情報のデジタル化も急速に進められている。このデジタル化は博物館情報に新たな価値を付与するとともに、博物館活動に大きな変化をもたらしている。その結果、情報の管理や活用上の新たな課題も生じており、学芸員にはそれに対処する知識・能力が求められている。そこで、この科目では博物館が持つ情報の意義と、近年の各メディアを用いた博物館活動の展開について、具体的事例をもとに学び、新たな課題についても理解を深める。						
到達目標	博物館における情報の意義と活用方法、および情報発信の課題等について理解し、博物館の情報提供と活用法等に関する基礎的能力を養う。						
授業計画	第1回 講義 博物館における情報・メディアの意義と種類 第2回 講義 メディアの理論・歴史と情報の意義 第3回 講義 メディアとしての博物館（メディアの発展と博物館・情報） 第4回 講義 ITC社会の中の博物館Ⅰ（情報資源の双方向活用と役割） 第5回 講義 ITC社会の中の博物館Ⅱ（情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化） 第6回 講義 情報教育の意義と重要性 第7回 講義 映像倫理、博物館メディアの役割と学習活用 第8回 講義 博物館活動の情報化（調査研究・教育普及から広報・広聴活動まで） 第9回 講義 コレクションドキュメンテーションとデータベース化 第10回 講義 デジタルアーカイブの現状と課題（画像データベース構築事例を中心に） 第11回 講義 情報管理と情報公開（情報管理システムの構築とウェブ等による公開） 第12回 講義 情報機器の活用（情報機器に関する知識・経験とコンテンツ制作について） 第13回 講義 インターネットの活用（メディアリテラシーとの関係も含めて） 第14回 講義 博物館と知的財産（知的財産権・個人情報・権利処理の方法） 第15回 講義 博物館の情報化と新たな価値の創造・（課題レポートの発表）						
授業外における学習（準備学習の内容）	この授業では、博物館・美術館のインターネットによる情報発信・共有について話題になることが多いので、授業中に指定したWEBサイトを予習復習として閲覧することを求める場合がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題レポート40%、平常点60%（詳細は初回講義で説明）						
教科書	なし。						
参考書	『知のデジタルアーカイブ ―社会の知識インフラの拡充に向けて―』（総務省、2012年3月、 http://www.soumu.go.jp/main_content/000167508.pdf ）						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館実習						
担当教員	宗像 衣子・山本 和人						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	3.0
授業のテーマ	博物館学芸員課程の4年間の総まとめ						
授業の概要	<p>本科目は、夏期の館園実習を中心にして、その事前指導と事後指導（講義・演習含む）、実務実習及び見学実習（日曜日）で構成される。夏期館園実習は各学生の専門領域関心分野に関わる実習館を用意する。事前に十分に各館について全員で学び、調査発表等によって互いに知見を共有し、各々一定の実践的能力を備える。下記シラバスは、館園実習（夏期5～6日の終日。後記参照。）を除く。 （A：担当 宗像先生、B：担当 山本先生） （この科目以外に、任意設定科目：比較文化I A B、考古学で、関連学外研修・実習の可能性あり。）</p>						
到達目標	博物館学芸員課程の4年間の学修の総まとめの意味をもつ科目であり、3年次までに博物館課程の、実習を除く必修科目、必要な選択必修科目をすべて修得し、かつ一定の成績基準を収めた学生のみ履修が認められる。多様な館種の実状、そこでの学芸員の仕事を把握し、実践的能力を養うことで、学科の学びに理論的並びに具体的に関連付けられた課程としての集大成を目標とする。（12人程度の少人数クラスで充実した個別指導）						
授業計画	不定期の授業時間になるが、まだ未定部分が多いので、登録を許可されたものは、4月の第一回目の授業に出席して、授業日程と具体的内容についての説明を受けること。						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義と実習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	なし						
参考書	なし						